

平成 19 年 5 月 14 日
大阪ウォーターフロント開発（株）広報部
〒552-0022 大阪市港区海岸通 1
TEL06-6576-5529 FAX06-6576-5551
（担当：橋本、松原、西村、斎部、松森）

多くの感動をありがとう！

以布利センターで療養中の「遊ちゃん」が亡くなりました

海遊館の付属施設である「大阪海遊館 海洋生物研究所^{いぶり}以布利センター」¹で療養中のジンベエザメ「遊ちゃん」（メス、推定年齢 12～13 歳、全長 5.37m、体重 1.9t、平成 18 年 11 月測定）が、平成 19 年 5 月 13 日（日）20 時 03 分、同センターの水槽内で死亡しました。死因は現在のところ不明で、目下調査中です。

「遊ちゃん」は、海遊館の「太平洋」水槽内で飼育展示中、3 月下旬から餌の吸い込みが悪く、4 月中旬から餌を吐き出すなどの行動が見られるようになりました。糞便検査、視診などの身体検査、薬剤投与などの処置を施しましたが、回復の兆しが見えないため、より落ち着いた環境で検査・治療を行うため、高知県土佐清水市にある「以布利センター」へ搬送し（平成 19 年 5 月 7 日資料提供済）、5 月 8 日（火）から 24 時間体制で飼育係員が付きっきりで治療を続けていました。

同センターでは血液検査、点滴（栄養補給）、薬剤投与（ビタミン剤、抗生物質など）などを行いましたが、5 月 13 日（日）17 時頃から動きが弱くなり、残念ながら同日 20 時 03 分死亡を確認しました。

死亡までの経緯

海遊館（「太平洋」水槽）での状況

- 3 月下旬 ～ 餌の吸い込みが弱くなる。
- 4 月 1 日（日） 餌の吐き出しがあり、以降、一日の餌の定量（7kg）を半分（3.5kg）に減らす。
- 4 月 6 日（金）～ 体の抵抗力が落ちて感染症のおそれがあるため、抗生物質の経口投与を行う。
- 4 月 9 日（月） この頃から、餌の吸い込みが一時良くなる。
- 4 月 15 日（日） 給餌の合図への反応が遅く、多量の吐き出しがあった。
- 4 月 27 日（金） 午後の餌をほとんど吸い込まず、不摂餌。24 時間の観察開始。
- 4 月 28 日（土） 活性向上を目的に、「太平洋」水槽内の水温を 24.5 から 25.5 へ上げる。抗生物質の経口投与を行う。

この日以降、摂餌不良が続く。

5月7日(月) 海遊館「太平洋」水槽から、以布利センターへ向けて搬出。
(21時22分海遊館からトレーラーで出発、22時30分天保山岸壁出港)

「以布利センター」での状況

5月8日(火) 22時20分以布利港に到着

5月9日(水) 0時45分以布利センターの大水槽へ搬入。

すぐにリリースするが、自力遊泳が弱いため、水面の特製担架に収容し、点滴を実施。

5月10日(木)～12日(土) この間、適宜点滴実施。一時、小康状態を保つ。

5月13日(日) 17時頃から動きが鈍くなり、硬直したように尾ビレを動かさない状態が見られるようになる。

20時03分死亡を確認した。

ジンベエザメの「遊ちゃん」は、平成10年(1998年)7月15日高知県土佐清水市以布利地区沖合約2kmの定置網にかかり、以布利港内の生簀で餌付けに成功したため、同年8月9日に以布利センターの養生水槽に搬入、約2年後の平成12年(2000年)6月27日に海遊館(「太平洋」水槽)に搬入したもの。海遊館では、2代目のメスのジンベエザメで「太平洋」水槽での飼育日数は2,505日間²(平成19年5月7日時点)と、初代の「遊ちゃん」の3,053日間³に次ぐ記録を持っていました。オキアミ・イサザアミ・サクラエビなどを一日(2回に分けて)約7kg食べていました。

世界最大の魚類ジンベエザメの展示園館は国内で3箇所しかなく、海遊館でも人気ナンバーワンの生き物で、お年寄りから幼児までたくさんのファンに愛されています。そのためジンベエザメ目当てのお客様の期待に応えるべく、以布利センターから「海くん」⁴を搬入し(平成19年5月9日資料提供済)、5月10日から「遊ちゃん」に代わって「海くん」が、「太平洋」水槽で元気に迫力のある遊泳ぶりをお客様に披露しています。

- 1 大阪海遊館 海洋生物研究所^{いぶり}以布利センター
海遊館で展示する生物の収集、養生と足摺岬周辺海域の海洋生物の基礎的研究を行うため、平成9年(1997年)9月24日に高知県土佐清水市以布利に開設。施設としては、大型の円形養生水槽(直径20m、水深5m、容量1,600t)と研究管理棟がある。
- 2 海遊館での飼育日数(2,505日間、平成19年5月7日時点、この間の入館者数は述べ1,548万人)に、海遊館に搬入する以前の以布利センターでの飼育日数(688日間)と、今回の以布利センターでの療養期間(6日間)を合算すると、通算の飼育日数は3,199日間(平成19年5月13日時点)となり、初代「遊ちゃん」の飼育日数(3,053日間)を超え、海遊館でのジンベエザメ飼育日数としては最長となる。
- 3 初代の「遊ちゃん」は、平成2年(1990年)6月4日に沖縄県^{よなくすく}与那城村(現、与那城町)伊計島^{いけい}沖合いの定置網にかかり、現地で餌付けに成功。海遊館のオープン(同年7月20日)直前の7月11日に海遊館の「太平洋」水槽に搬入したもの。その後、平成10年(1998年)11月19日に死亡した。死因については、特に外傷などは見当たらず、解剖検査および血液、各部位の組織検査の結果からは、「出血性腸炎および肝臓の血管腫からの出血」が認められたが、これが直接的死因であるかどうかは断定できなかった。遊ちゃんは、推定年齢12~13歳、全長7.76m、体重6.2t(平成10年7月11日現在)。
- 4 「海くん」は、平成13年(2001年)7月1日高知県土佐清水市以布利地区沖合約2kmの定置網にかかり、以布利港内の生簀で餌付けに成功、同年7月3日に以布利センターに搬入。センターでの飼育期間は約6年間。そして、平成19年5月10日に海遊館の「太平洋」水槽に搬入。

本件は、大阪市政記者クラブ、高知県庁県政記者クラブ、土佐清水市企画広報室に、平成19年5月14日(月)10時30分に同時資料提供を行います。

(参考)

1.【今回死亡した「遊ちゃん」の成長の推移】

計測日	H10.8.9	H12.6.27	H12.11.1	H13.11.1	H14.11.1
全長 (m) ⁵	4.00	4.30	4.58	4.71	4.80
体重 (kg) ₆	700	850	1,000	1,100	1,300
年齢 (歳) ₆	4~5	6~7	6~7	7~8	8~9

H15.11.1	H16.11.1	H17.11.1	H18.11.1
4.92	5.05	5.23	5.37
1,400	1,500	1,700	1,900
9~10	10~11	11~12	12~13

5 平成10年8月と、平成12年6月に測定した全長は、ジンベエザメの横を泳ぎながらメジャーで計測したもので、およその値です。

6 体重および年齢は、推定値です。

2.【ジンベエザメ 英名 Whale shark 学名 *Rhincodon typus*】

ジンベエザメ科。温帯から熱帯の沿岸および外洋に生息する大型のサメで、全長18mに達する世界最大の魚類といわれています。ただし、18mという全長は測定に基づく正式な報告ではなく、その後、最大記録は全長13.7mとされてきました。ところが、この記録の真偽も不確かで、最近では最大10~12m、稀にさらに大きく成長する可能性もあると考えられています。日本近海では黒潮に乗って春から秋にかけて現れます。体は灰色で白色の斑点が散在し、小型甲殻類などのプランクトンを食べます。